

AQUA

ここは富水 すどう美術館の新しい活動の場
 こんこんと水が湧くようにアートも湧めども尽きない希望が湧いてくる
 水はわたしたちになくってはならないもの「AQUA」が誕生する

2015年1月発行 40号 すどう美術館
 〒250-0853 神奈川県小田原市堀之内 373
 TEL.0465-36-0740 FAX.0465-36-0739
 info@sudoh-art.com
 http://www.sudoh-art.com

すどう美術館との出会いと最近の私

大矢雅章

「AQUA」40号の記念号発刊

すどう美術館とのおつきあいは、第2回若き作家からのメッセージ展で賞を頂いたことからスタートして17年になります。この間、美術館とのつながりはいろいろありますが、その一つとして、館長の著書「世界一小さい美術館ものがたり」の文中に自作を掲載して頂いたのは、思い出深い出来事です。

さて、出会った当初から最近まで、版画や立体作品の制作発表を中心にして過ごしてきましたが、現在は、発表活動を一時休止して、博士号の取得のために多摩美術大学に学生として在籍し、子育てと仕事をしながら論文執筆や研究を中心にした生活を送っています。

博士号の取得に挑戦することになったのは、20代からの目標の一つだったこともありましたが、いろいろ研究している銅版画の制作を、一度論文として纏めてみたいと思ったからです。在籍する博士課程では、論文と作品両面において、さまざまなジャンルの教員（評論家・デザイナー・作家など）と、

各国から集まった学生達に、客観的かつ論理的に自分の作品をプレゼンテーションしながら学位を取得していきます。本来、言語化出来ない作品を、さまざまな視点から分析し客観的に文章化し、述べることは大変困難なことです。しかし、制作者には一見不要に思われる、このような複合的な訓練は、作り手の技能と論理双方を刺激し、表現にさらなる広がりを生むのだと感じています。

作品を作ることと、論文を書くことは、全く別のことのように思われがちですが、本質的には自身に深く向き合うことには変わりません。論文に向き合ってから、これまで漠然と認識していたことが論理として明快になってきました。自身の追求する銅版画への明確な指針が、いままでより強く見えてきたように思います。課程修了まではあと一年。新しい作品と論文執筆で、これまで以上に忙しい日々が続くそうです。

2015年の新年おめでとうござい
 ます。あわせておめでたいことに、すどう美術館ニューズ「AQUA」が創刊され、今号から40号記念になりました。この1月で7年5か月です。この1月に1回、発行していることになりました。この間、多くの方に執筆いただき、充実した紙面ができてきました。深く感謝したいと思います。また、毎回「AQUA」のデザインを担当いただき、素敵なニューズに仕上げてください。徳澤姫代さんにはあらためて厚くお礼を申しあげます。美術館の運営としては、あつという期間でしたが、その時々の記事に書かれておりますように、活動の幅が広がっています。いろいろな活動ができたように思っています。館内の展示会に加え、「アーティスト」

すどう美術館館長 須藤一郎

イン・レジデンス」2回の実施や「東日本げんきアートプロジェクト」立上げと若手県大植町他の現地へ行っての3回の活動など、小田原市の後押しによる「小田原ものづくり・デザイン・アート」への参加で地元工芸の作家とすどう美術館の作家とのコラボにより小田原の活性化にも一端の役割を果たすこともできました。海外の関係ではドイツ、アメリカのアーティストに計5回出張し、日本の作家の「アト」にも努めてきました。本年も4回目となるドイツのマルティン・フアウゼン展をはじめ国内外作家の展覧会や「日本おもちゃ会議」のメンバーによるおもちゃの展覧会とワークショップ（みて・あそんで・つくる）など魅力的な催しが予定されています。これから「AQUA」50号に向けてさらに充実した活動ができればと決意を新たにしています。引き続き皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。

点描

こんな話でよかったら (25)

仙仁司

リビングルームは家族が集い多くの時を過ごす。わが家もそうであったし今もそうである。東西にキッチンと寝室が並ぶ18㎡ほどのスペースには、まず入口の近くには7年前になくなったペットのバグの遺骨と両親の写真を納めたそれこそ小さな仏壇、その隣には、最近では弾く人もないアトラス社のアップライトが並び、そのうえには娘や息子の結婚式の写りが最近加わり、桃の節句には雛人形がアトランダムに据えられて賑々しくお話に興じて過ごす。90°廻るとパソコンとプリンターが様々なバグのぬいぐるみに囲まれ、隣りには早い時期に購入したシャープのアクオスが各地の民芸品を従えて位置取り、寝室のドアを挟んで90°曲がれば南面し、今この文章を書いている最中のソファがあって、外に目を向ければ細長く東西に広がり四季を楽しませてくれる妻と息子の庭がすっかり葉を落して寒々とした夕暮れを迎えている。

北と西の壁面にはいつも5点の作品が掛けられ、盆と暮には掛け替える。今は深沢省三先生の富士山、上野泰郎先生のエスキース、ペンシャーンのリトグラフ、深沢先生の色紙（仏像）、息子の径が制作した切り紙が並び、ソファに腰を下すといつの間にか見入って何とも言えない気持ちになってくる。

一口で言えば、色々妻子と話を交わしながら過ごしたこの空間は客のある時だけは小奇麗になるが、いつもはちょっと雑然とした家族共有のギャラリーなのです。家族がそれぞれこの部屋で時を過ごしながら色々な内的体験を持つことができた場であった。リビングルームってそういう所なんだね。

白いノート 18

大切なことは昔から、仕事をしている人を見るのが好きだった。できる人はかっこいいなあ、と憧れ続けてきた。思えば、私にとっての仕事の原点はそこにある。しかし昨年は、そこからどんどん遠のいてしまふことが多く、ため息ばかりついていた。最近読んだエッセーの中に、北の地で薪運びの手伝いをする少年の姿が書かれていた。「薪を運びこんだ後の掃除までが自分の仕事だと、きれいに床を掃いていった。少し時間はかかるが、ちりひとつ落ちていない床の清々さが、丁寧で誠実な仕事を物語っていた。日頃、早くこなすことに終始している自分を省みていた矢先、耳の痛い言葉だった。素早いことも時に必要であるが、それだけでは何も蓄積されない。仕事には人が表れる。いい仕事をしている人は、人間も魅力的だ。そしてみな、試行錯誤しながら懸命に求めるものへ向かっていく。憧れに、今年少しは歩みよれるだろうか。高橋玉恵



創作おもちゃの「みて・あそんで・つくる展」日本おもちゃ会議

久保 進

5月1日～10日、日本おもちゃ会議の「みて・あそんで・つくる展」をすどう美術館で開催できることになりました。日本おもちゃ会議は、創作おもちゃ作家、おもちゃ屋さん、保育士さん、学校の先生などおもちゃが大好きな人たちでつくる全国組織です。

すどう美術館とは、2004年に日本おもちゃ会議の有志が銀座で展覧会を開催したのが始まりでした。すどう美術館が小田原に移ってから会場は変わりましたが、毎年のテーマを須藤館長、副館長さんをお願いして今日に続いています。

このようなつながりがある、私たち日本おもちゃ会議スタッフは、開催のお願いにすどう美術館に伺ったのです。嬉しいことに、須藤館長から共催の提案をしていただけました。そして小田原市役所への後援依頼に須藤館長も同行してくださいました。

小田原は寄せ木細工など木工が盛んな都市です。そのこともあって、私たちの展覧会にも関心を持っていただけたようで、小田原市も共催して下さることになりました。「みて・あそんで・つくる展」に展示するおもちゃ作家は21名。ワークショップも5/2～5/5の5日間に10講座を実施します。

今の時代、子どもたちの生活にもバーチャル（仮想的な空間）な世界が広がる中、直接自分の目で見て、実際に手を使って遊んで、工夫して作る機会を少しでも増やしていくことが大切です。様々な分野で活躍する日本おもちゃ会議の会員による楽しい展覧会です。この展覧会を通して、親子が美術館に気楽に足を運ぶきっかけになればとも期待しています。

須藤館長は「アートは人間の心の糧としてなくてはならないもの」と常日頃と言っておられます。私たちも「みて・あそんで・つくる展」で小田原市子どもたち、大人の方々に「心の糧」をいっぱい用意したいと思っています。

是非、お出かけ下さい。

続々 世界一小さい美術館ものがたり

蟻の研究

2014年11月の半ば、男性ふたり連れの初めての来館者があった。新聞の展覧会情報を見てやってきたのだという。その時の展示は小田原在住の工芸作家とすどう美術館の作家とのコラボ展「小田原もあ（ものづくり、アート）展」であり、タイトルが「三次元の蟻は垣根を超える」であった。工芸とアートの間に垣根があると一般的には思われているが、美を追求する目的は同じであり、垣根を超え、両者が交流し、刺激しあうとそれぞれ質を高め、新しいものに挑戦しようとの考えで行われているものである。3回目となった今回は特にその成果が出て、象徴的に使った三次元の蟻はまさに二つの間の垣根を超え、壁はなくなっている。さて、このおふたりに、どういう関心をお持ちで来られたのかを質問すると蟻の研究をして出かけていくのだとのことであった。「展覧会の三次元の蟻…」のタイトルに引き入れられたらいい。

生きた蟻はいないのに、それでも熱心に、興味深そうに展覧会を見ていただけたのはうれしいことであり、いろいろな話し合いができた。年配の方は大学等で長い間、蟻の研究を続けてこられ、その世界では有名な人だと、中堅の研究者（学術博士）が説明してくれた。今は独立して研究所を設立し、このふたりで研究に当たっているのだという。いろいろ話を聞く中で「蟻の生態を研究するのに蟻ほどのようにお飼いはならないですか」と質問すると「蟻の飼育はともたいていへんで、他のことは何もできなくなる。それで今は専らフィールドワークによっている、年をとったら飼育したい」と所長（年配の方）から返事があった。これに対し「研究員から先生は80歳を超えているのだからもう十分年を取っていますよ」と茶々を入れたいのが面白かった。

須藤一郎

北村善子展
1月27日(火)～2月8日(日) 月曜休館
11:00～18:00 (最終日～17:00)

作家のことは
作品展タイトル「すきま・ゆきき」は、10年前からのテーマです。
ひととひと ものとひと しぜん とひと
それらの、あいだを行き交う 鼓動・光・魂
これら多くのものを、体で感じ無になり自然に描く。
制作は、とても楽しい時間です。北村善子

すどう美術館セレクション展
2月17日(火)～3月1日(日) 月曜休館
11:00～18:00 (最終日～17:00)

すどう美術館が所有する作品の中からあらためて皆さまに見ていただきたいと思う作家の作品を選び展示します。

ベテランから「若き画家たちからのメッセージ展」授賞の新進作家の作品まで多様で興味深くだれにでも楽しんでいただける展覧会です。

展覧会 info

編集後記

ある雑誌のグラビアで「日本の笑顔」という特集があり、三〇人ほどの笑顔の写真を見ました。俳優、女優、作家、政治家、スポーツマンなどさまざまな職業の人たちです。

いろいろな体験をしたり、辛いことも乗り越えたり、自分の信じる道をやり遂げてきた人だからこそ、湧き出でるような笑顔になるのでしょう。その人のすべてを物語る魅力が感じられます。

この一年、私自身は思いも寄らないたいへんな病に冒され、なかなか笑うことができませんでした。

「笑う門には福来たる」とです。新しい年こそは笑顔で皆さんをお迎えしたいと思っています。

須藤紀子